

---

# 電池の憂鬱

石田杞憂

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

電池の憂鬱

### 【Nコード】

N6811D

### 【作者名】

石田杞憂

### 【あらすじ】

やっぱ燃料電池の時代っすかね。

マンガン電池を持った女の子が俺の方に歩いてくる。

俺は欠伸をしながら廊下を歩いてた。彼女と目が合う。

すると彼女はいきなり持っていたマンガン電池を俺に投げつけるわけだ。

「な、なんでマンガン電池じゃだめなのっ!!」

いきなり廊下にしゃがみ込んでしくしく泣き出す。

「え、え、え」

俺は何もできず立ち往生。

続けて彼女が言った。

「オキシライドが、オキシライドがいけないのよ。あいつがいなかったら私だって…えっぐ」

一向に泣きやむ様子はなく……。

いや、別に俺が泣かせたわけじゃないぞ。

だが端からみれば俺が泣かせたように見て取れるが。

「まあほらマンガンも需要とかあるし」

俺は苦し紛れに慰めた。

「ダメなのっ!!それでもアルカリばっか鼻屑されてたのに、オキシライドまで現れたら……うっ…もう…どうしたらいいのよ」  
どうしたらって……。

俺が何をいうべきか考えていると、

突然すつと立ち上がって言った。

「あなたは誰が好きなのっ!？」

俺は正直な気持ちをつづけた。

「え？俺？おれは、ニッケル・カドミウム蓄電池をよく使ってるなあ。

まあでもボルタ電池も好きなんだよなあ。  
あの古典的な雰囲気は何ともしたらなくて思わず希硫酸に頭突っ込  
みたくなるんだよなあ」

すると彼女は口を開け放しにして俺を見ていた。  
ややあつて、

「う、う、浮気者っ！！！！！」

ばしんという音と共に俺の頬には鮮やかな紅葉が現れた。  
女心ってのはよくわからん、とひりひりする頬を押さえつつ思った。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6811d/>

---

電池の憂鬱

2011年10月4日20時08分発行